スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

## 地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

# 福井県 美浜町


自 治 体 名 ： 福井県美浜町
担 当 課 名 ： 美浜町教育委員会事務局　教育総務課
電 話 番 号 ： 0770-32-6708

# 1.自治体の基本情報

スポーツ庁

## 基本情報

| | |
|---|---|
| 面積 | 152.35 ㎢ |
| 人口 | 8,654 人 |
| 公立中学校数 | 1 校 |
| 公立中学校生徒数 | 187 人 |
| 部活動数 | 9 部活 |
| 市区町村の協議会・検討会議等の設置状況 | 設置なし |
| 市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況 | 設置なし |

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

美浜町では中学校１校体制で、以下の部活動がそれぞれに活動している。

【運動部】

陸上部、ボート部、男女ソフトテニス部、男女卓球部、野球部、女子バレーボール部

・男女卓球部については、部活動指導員を配置。

・男女ソフトテニス部については、地域指導員。

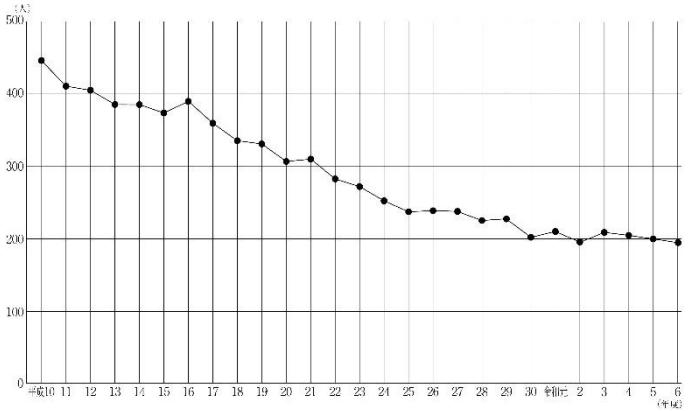
【文化部】

吹奏楽部、美術部

この中でも、ボート部は、ボート競技が昭和43年の1巡目国体開催を契機として、半世紀以上にわたって取り組んでいる中で、競技力向上と競技人口の拡大を目的に創設されたものである。

近年、少子化による競技人口の減少や指導者の確保が課題となっており、福井県ローイング協会が、先頭に立って「ジュニアローイングクラブ」を立ち上げ、選手育成を図るとともに、拠点校における休日の地域におけるスポーツ活動の実践をとおして、持続可能な運動部活動の在り方を検討してきた。

一方、その他の部活動についても、同じ課題を抱える中で、受け皿となるクラブチームが設立される動きが見られ、町としても地域移行の着実な進展を図るため、次年度以降も協議・検討を重ねていく予定である。




美浜中学校　生徒数推移　　出典：2024美浜町学校教育要覧

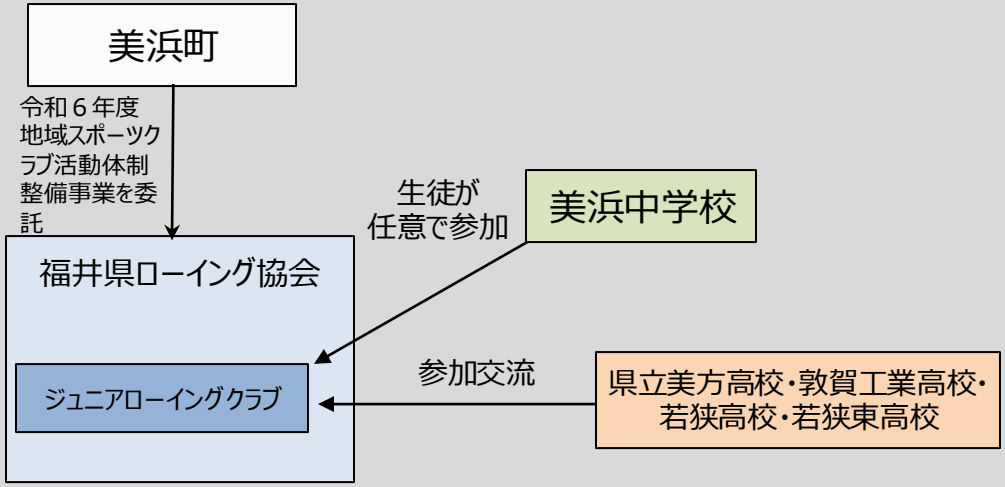
【課題】
現在の美浜町の出生数を鑑みると、今後減少傾向はますます大きくなることが想定される

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 運営体制・役割

### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）




### ●行政組織内での役割分担

- **教育委員会**（教育総務課）

教育総務課　　：実証事業担当課

スポーツ推進室

## 年間の事業スケジュール

| 時期 | 計画事項 | | |
|---|---|---|---|
| 4月 | 4回 | 練習 | 県立艇庫・久々子湖漕艇場 |
| 4月28、29日 | 2日 | 岐阜レガッタ出場 | 川辺漕艇場 |
| 5月 | 4回 | 練習 | 県立艇庫・久々子湖漕艇場 |
| 6月 | 5回 | 練習 | 県立艇庫・久々子湖漕艇場 |
| 6月30日 | 1日 | 津幡レガッタ出場 | 津幡漕艇場 |
| 7月 | 3回 | 練習 | 県立艇庫・久々子湖漕艇場 |
| 7月7日 | 1日 | タレント発掘事業 | 県営体育館 |
| 7月 | 4回 | 練習・合宿 | 県立艇庫・久々子湖漕艇場 |
| 7月22、23日 | 2日 | 全日本中学選手権競漕大会 | 川辺漕艇場 |
| 8月 | 4回 | 練習 | 県立艇庫・久々子湖漕艇場 |
| 8月18日 | 1日 | 体験事業 | 県立艇庫・久々子湖漕艇場 |
| 8月18日 | 1日 | 福井県民スポーツ祭 | 久々子湖漕艇場 |
| 9月 | 3回 | 練習 | 県立艇庫・久々子湖漕艇場 |
| 9月28,29日 | 2日 | 全国中学校新人ボート大会 | 円山川漕艇場 |
| 10月 | 4回 | 練習 | 県立艇庫・久々子湖漕艇場 |
| 11月 | 5回 | 練習 | 県立艇庫・久々子湖漕艇場 |
| 12月 | 4回 | 練習 | 県立艇庫・久々子湖漕艇場 |
| 1月 | 4回 | 練習 | 県立艇庫・久々子湖漕艇場 |
| 2月 | 4回 | 練習 | 県立艇庫・久々子湖漕艇場 |
| 3月 | 4回 | 練習 | 県立艇庫・久々子湖漕艇場 |
| 3月 | 6回 | 練習・合宿 | 県立艇庫・久々子湖漕艇場 |
| 3月22,23日 | 2日 | 全国中学校選抜大会 | 久々子湖漕艇場 |

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の運営実績

### ①全体に関すること

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中学校数 | 1 校 | 実施した地域クラブ総数 | 1 クラブ |
| ケース別クラブ数 | A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数） | | 1 クラブ（1 部活） |
| | B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等） | | 0 クラブ |
| 全体の指導者数 | 6人 | 全体の運営スタッフ数 | 8 人 |

### ②各クラブに関すること

| クラブ名 | 運営団体種別 | 種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける | 実施回数 | 実施時間帯 | 参加者（学年別） | 実施期間 | 活動場所 | 指導者数 | 運営スタッフ数（他クラブと兼務） | 会費 | 大会参加方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 福井県ローイング協会 | 競技団体運営型 | ローイング | 月4回程度 | 8：00<br>～<br>12：00 | 3年：8人<br>2年：6人<br>1年：9人 | 4月～3月 | 福井県立久々子湖漕艇場 | 6人 | 8人 | 月会費／5,000円 | 中学校：部活動<br>その他：クラブ |

### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

●7/7「タレント発掘事業」（福井県営体育館）参加
●8/18「体験会」（福井県立久々子湖漕艇場）運営

# 2.実証内容と成果

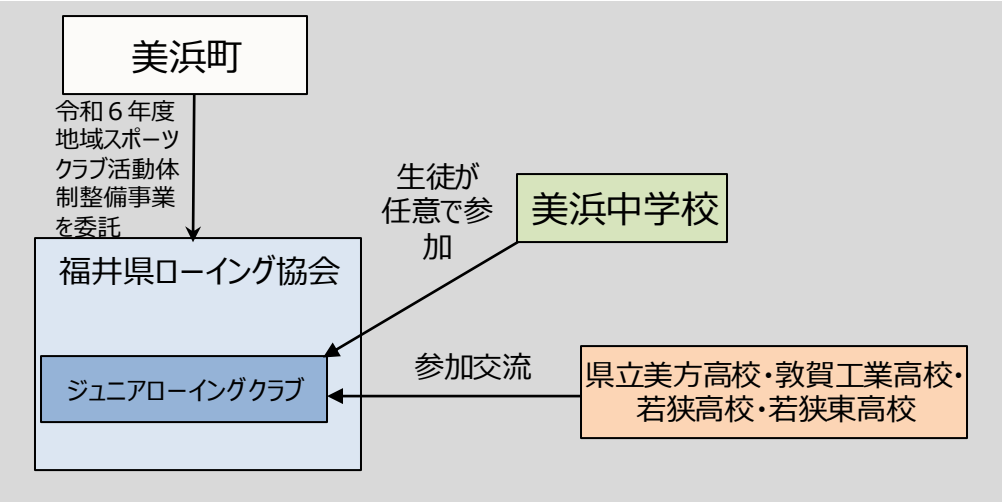
スポーツ庁

## 主な取組例

### ●福井県ローイング協会　活動概要

| | |
|---|---|
| 拠点校名 | 美浜中学校 |
| 地域クラブ活動に移行した部活動数 | １部活 |
| 地域クラブ活動で実施した種目 | ローイング競技 |
| 運営主体名 | ジュニアローイングクラブ |
| 運営類型 | 競技団体運営型 |
| １か月あたりの平均的な活動回数 | ローイング：月４回程度 |
| 指導者の主な属性 | 競技及び指導経験者 |
| 活動場所 | 福井県立久々子湖漕艇場 |
| 主な移動手段 | 保護者自家用車による送迎 |
| １人あたりの参加会費等（年額） | ローイング：60,000円<br>（5,000円／月額） |
| １人あたりの保険料 | スポーツ安全保険<br>生徒１人あたり：1,450円/年<br>指導者１人あたり：10,150円/年 |

### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）




### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

| | |
|---|---|
| クラブ職位 | 福井県ローイング協会職位 |
| 代表 | 理事長 |
| 副代表 | 事務局次長 |
| 事務局長 | 事務局次長 |
| チーフコーチ | ４名（全国大会優勝・日本代表経験者：中学校部活動顧問） |
| サポートコーチ | ２名（全国大会優勝経験者） |

# 2.実証内容と成果

**ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備**
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

### ●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**取組事項**

担当部局と福井県ローイング協会が連携を図りながら、実証に臨む。

**取組の成果**

・この事業も４年目を迎え、担当部局と福井県ローイング協会との連携がなされ、実証事業についても円滑に取り組むことができた。

・クラブ設立から４年が経ち、保護者からは、送迎、月謝、活動について理解が得られている。

・充実した指導体制をとっており、生徒からの満足度も高い。

・指導者もやりがいを感じており、地域貢献や生徒の成長に喜びを感じている。

・全国大会で２年連続優勝するなど、クラブ活動により選手が高い競技スキルを習得することができた。

**今後の課題と対応方針**

・引き続き、月間活動回数を維持し競技レベルの向上を図るとともに、クラブ会員を県域で募集し、能力の高いタレントの確保また育成を行い、高校部活動へ繋げ中高一貫指導体制の一助とする。

# 2.実証内容と成果



スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①**

**取組事項**

町技であるボート競技を対象としており、受け皿となっていただく福井県ローイング協会から公認コーチの資格を有した複数名の指導者を配置し、指導の質の保証を図る。

| 登録者属性 | 種目 | 資格有無 |
|---|---|---|
| 活用なし | ・ローイング | 福井県ローイング協会公認のコーチ資格 |

**取組の成果**

全国大会優勝経験を有する指導者を確保し、高いレベルでの指導できる環境を整えた。

# 2.実証内容と成果



スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②**

### 指導者研修の内容

【指導者間の情報共有とスキルアップ】

・対象　指導者全員

・目的　選手の体調や成長度合い等の情報共有や指導者の指導スキルの向上を目指す。

・頻度　毎練習毎

【高校カテゴリーの指導者との連携】

・対象　指導者全員

・目的　中高一貫指導体制を確立するため、高校指導者との情報共有や指導スキルの向上のための指導助言を得ることを目的とする。

・頻度　適宜

### 指導者研修の参加実績

・開催日：　11月 9日

・開催回数：　１回

・参加人数：　５ 人

ローイング協会内の指導者研修（情報共有や指導スキルの向上のための指導助言を得る）

### 受講者の声

・現行６名の指導者については、全国大会優勝経験を有する高いスキルを持った指導者であり、保護者からもレベルの高い指導力について、評価いただいている。

### 今後の課題と対応方針

・今後も引き続き、競技経験者はもとより、全国大会優勝経験を持つ指導者の確保と充実を図る必要がある。

・女性指導員の育成を図る必要がある。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
**ウ：関係団体・分野との連携強化**
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

### ●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

**取組事項**

既に美浜町、美浜中学校、福井県ローイング協会は連携をとっている中で、更に情報共有を図り、連携強化に努める。

**取組の成果**

・ボート顧問が、クラブ指導員として役割を担う中で、美浜中ボート部とジュニアローイングクラブの情報共有、指導理念の共有推進が図れた。
・中高一貫指導体制を確立するため、高校指導者との情報共有を図り生徒が長期で成長しやすい環境構築を図れた。

**今後の課題と対応方針**

今後地域移行が進む中で、施設利用の調整が必要になる。冬季間の施設活用について、他競技団体との密な連携を検討していく必要がある。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
**エ：面的・広域的な取組**
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　エ：面的・広域的な取組**

### 取組事項

クラブでは、県内全域の選手を受入れ対象としていることを踏まえ、町外選手と一緒に活動することで、部活動の枠をこえた交流を図る。

### 各自治体の役割

美浜町教育委員会事務局
・地域クラブへの運営補助

ローイングの町スポーツ推進室
（教育委員会事務局内設置）
・各団体と連携

### 移動手段

保護者自家用車による送迎

### 事務局運営の方法

・福井県ローイングクラブとして、団体の運営を行い、指導に当たるジュニアローイングへのバックアップを行う。

### 取組の成果

・県外合同練習会を行うことにより、部活動の枠を越えた交流が図れた。
・毎年３月に実施している「全中選抜ローイング大会」においても、大会終了後に他県選手との交流レースを行う中で、互いの技量向上につながっている。

### 今後の課題と対応方針

・次年度以降も、こういった取り組みを進めていく中で、スポーツ留学選手の確保につなげるとともに、「ボート王国福井」の競技力向上と裾野拡大に取り組んで行く必要がある。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
**オ：内容の充実**
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　オ：内容の充実**

### 取組事項

・ボート競技以外のトレーニング（トレイルラン）を取り入れ通常部活動ではできない活動をする予定であったが、悪天候のため中止した。

### 取組の成果

・特になし

---

### 今後の課題と対応方針

・専門的な指導者の配置により、レベルの高い指導を行う。また、ボート競技以外のトレーニング（登山、トレイルラン、メンタル研修）等を取り入れ通常部活動ではできない活動をすることで内容の充実を図る。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
**カ：参加費用負担の支援等**
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等**

### 取組事項

・補助金の活用により保護者負担を軽減する。

### 取組の成果

・経済困窮世帯の参加費負担軽減について、地域移行が進む中で他競技団体との足並みを合わせるため、検討のみに留まった。

---

### 今後の課題と対応方針

・保護者が負担や不平等感を感じないよう適切な支援を検討していく共に、団体が補助金等を活用しなくても運営していけるよう企業支援等の自主財源の確保をしていく必要がある。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
**キ：学校施設の活用等**
ク：その他の取組

スポーツ庁

## 取組内容

**●取組項目名　キ：学校施設の活用等**

### 取組事項

・冬期のトレーニングにおける、学校施設の活用
・学校施設の電子予約システムの導入

### 取組の成果

・ローイング競技については、湖上での練習が前提であり、冬季間における学校活用について、他の部活動とも調整しながら、校舎を活用したトレーニングを行うことにより、基礎体力の向上が図れた。
・電子システム予約導入については検討に留まった。

### 今後の課題と対応方針

・今後、他競技の地域移行が進む中で、限られた学校施設の活用を調整していく必要がある。他の部活動とも連携しながら、冬季間での学校活用に取りで行くとともに、他の体育施設の活用についても検討していく。
・電子予約システム導入について、引く続き検討していく。

# 2.実証内容と成果①

スポーツ庁

## 総括・成果の評価・今後に向けて

### ●総括

本実証事業では、部活動の地域移行におけるモデルケースとして、全国優勝経験者を指導者として配置し、高い指導力のもとでのクラブ活動を実施した。指導者間での情報共有や研修を積極的に行い、指導の質の向上に努めた結果、競技力の向上だけでなく、生徒の成長を促す環境の整備にも寄与した。

一方で、他競技の地域移行に向けて整備が必要な課題もあり、競技間格差や保護者の不公平感など、今後も積極的な周知行い、理解を求めていく必要がある。

### ●成果の評価

全国優勝経験者を指導者として配置し、専門性の高い指導を実施したことで、競技レベルの向上が顕著に見られた。また、指導者同士の情報共有や研修を通じて、指導方法の統一と質の向上を図り、生徒一人ひとりの能力を最大限に引き出す環境を整えることができた。その結果、全国優勝を2年連続で達成し、競技成果だけでなく、保護者や地域からの信頼も得ることができた。

### ●今後に向けて

・今後も引き続き、競技経験者はもとより、全国大会優勝経験を持つ指導者の確保と充実を図り、生徒が高いレベルで成長や達成感を実感できる場を提供する。
・生徒が成長できる活動の場を長期的に確保するため、団体の適切な運営方法を検討していく。
・地域内に設置のある学校施設、社会体育施設など、活動できる場所が限られているため、他競技団体の施設利用調整を行っていく必要がある。

# 2.実証内容と成果④

スポーツ庁

## 参考資料（活動写真）




【全国中学校選手権大会「優勝」】



【水上練習指導】






【エリートアカデミー
体験会】



【エルゴ指導】



【高校トップ選手との合同練習会】

# 2.実証内容と成果

スポーツ庁

## 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

| 令和３年 | | 令和４年～令和６年 | | 令和７年 | 令和８年 |
|---|---|---|---|---|---|
| モデルクラブ指定 | 活動支援<br>連携強化 | 実証事業継続 | 生徒、保護者への説明、受け皿指定 | 地域クラブ活動への移行 | 地域クラブ活動の拡大 |

●福井県ローイング協会が主体となって、国・県・町の支援を 受けて始動。

●国が示す中学校の地域部活動の地域移行と、同協会が抱える競技人口減少と指導者の確保の課題が合致し、モデルクラブの指定を受ける。

●課題としては、保護者の理解
、校区外からの人材確保

●実施内容
・月１回の練習
・大会参加
・トップレベル（全国大会優勝経験者）の指導体制の構築

●福井県ローイング協会が主体となって、国・県・町の支援を 受けて始動。

●国が示す中学校の地域部活動の地域移行と、同協会が抱える競技人口減少と指導者の確保の課題が合致し、モデルクラブの指定を受ける。

●課題としては、保護者の理解
、校区外からの人材確保

●実施内容
・月１回の練習
・大会参加
・トップレベル（全国大会優勝経験者）の指導体制の構築

●他の競技においても、受け皿と成りうる団体が育ちつつある中で、協議を進め、選定につなげていく。

●課題　①団体競技における広域連携
※近隣市町との連携
②施設利用等の支援制度、補助制度の確立

# 3.今後の方向性

スポーツ庁

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

